

建設委員会



作 成	建設局土木部雪対策室
委員会開催日	令和6年10月30日

目 次

I 令和6年度除雪事業の実施計画について

1 予算概要	1
2 事業概要	3
3 今冬の主な取組	4

<別紙資料 1 ～ 2 >

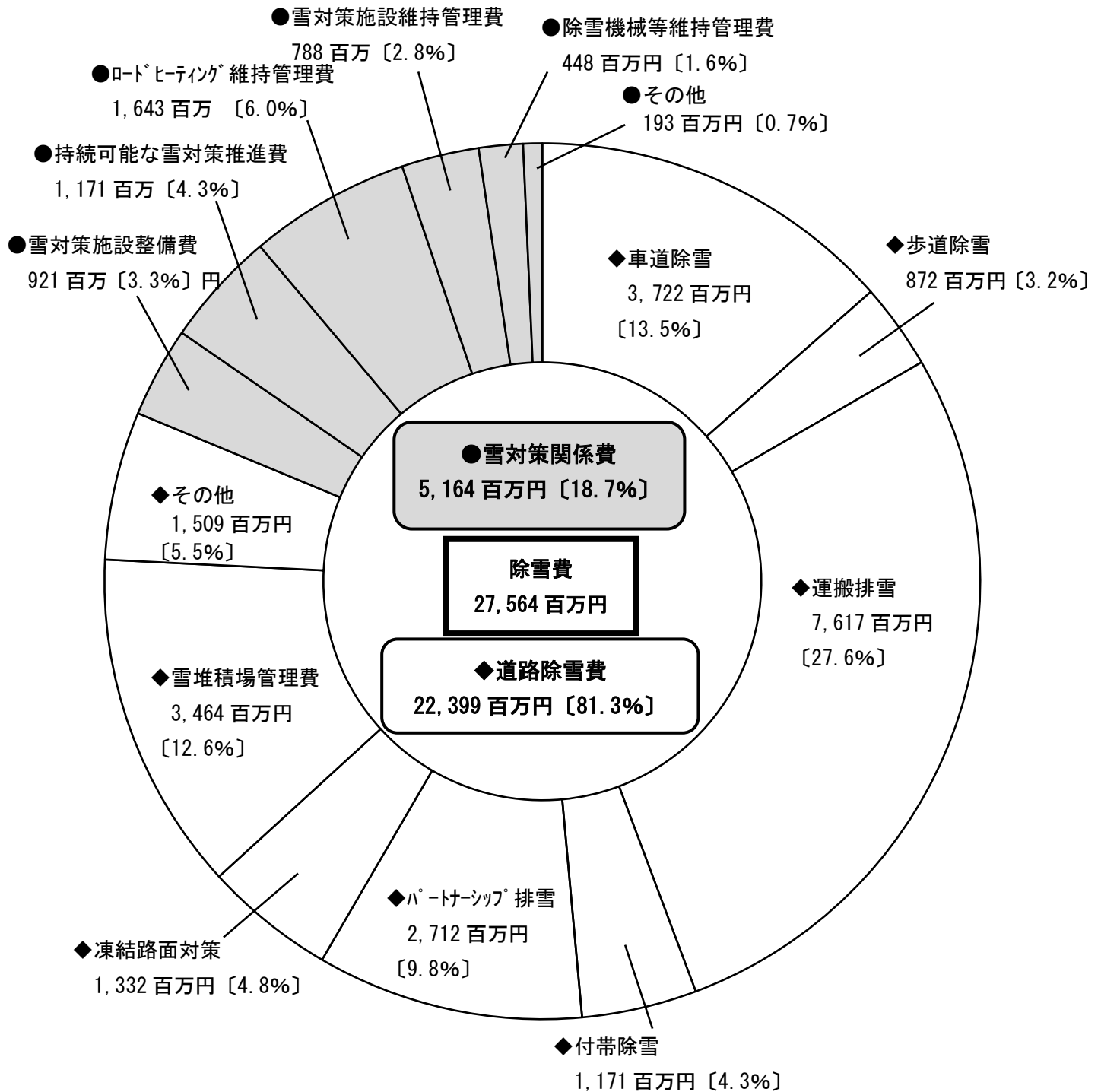
1 予算概要

(1) 除雪費内訳

(単位：百万円)

	項 目	令和 5 年度	令和 6 年度	対前年比 (B/A)
		当初予算 (A)	当初予算 (B)	
道路除雪費	車道除雪	3,875	3,722	0.96
	歩道除雪	809	872	1.08
	運搬排雪	7,679	7,617	0.99
	付帯除雪	958	1,171	1.22
	パートナーシップ排雪	2,695	2,712	1.01
	凍結路面对策	1,086	1,332	1.23
	雪堆積場管理費	3,289	3,464	1.05
	その他	1,405	1,509	1.07
	小計	21,796	22,399	1.03
雪対策関係費	雪対策施設整備費	735	921	1.25
	持続可能な雪対策推進費	898	1,171	1.30
	ロードヒーティング維持管理費	1,332	1,643	1.23
	雪対策施設維持管理費	793	788	0.99
	除雪機械等維持管理費	437	448	1.03
	その他	166	193	1.16
	小計	4,361	5,164	1.18
除 雪 費		26,157	27,564	1.05

(2) 構成割合



(3) 前年度からの主な増要因

労務単価等の上昇	568 百万円
ロードヒーティングに係る電気代・ガス代の高騰	312 百万円
雪堆積場等車両集計システムの構築等 ICT を活用した取組	247 百万円

(4) 令和6年2定補正予算について

労務単価上昇への対応分として 240 百万円を計上した。

2 事業概要

【 】はR5計画との比較

項 目		内 容	
道 路 除 雪 費 雪 対 策 関 係 費	除雪体制	標準作業期間	11月1日から3月31日
		除雪センター開設期間	12月1日から3月20日
	車道除雪	・道路管理延長 5,546km のうち除雪計画延長 <u>5,461km</u> 【5 km増】	
	歩道除雪	・歩道管理延長 4,070km(幅員 2m 以上)のうち除雪計画延長 <u>3,048km</u> 【増減なし】	
	運搬排雪	・幹線道路等の排雪延長 <u>1,398km</u> 【4 km増】 ・通学路の排雪延長 <u>269km</u> 【増減なし】 ・交差点の排雪箇所 <u>16,255 箇所</u> 【増減なし】	
	排雪支援制度	・パートナーシップ排雪制度の利用延長 <u>2,626km</u> 【42km 減】 ・市民助成トラック制度の利用延長 <u>121 km</u> 【8km 減】 ※両制度とも申請が 12 月からのため昨年の申請延長増減については R4 と R5 の申請延長の比較	
	凍結路面対策	・車道（幹線、バス路線など）の散布延長 <u>736km</u> 【増減なし】 ・歩道（公共施設周辺など）の散布延長 <u>320km</u> 【増減なし】 ・歩行者用砂箱の設置 <u>1,857 箇所</u> 【68 箇所増 ※R4 実績と R5 実績の比較】	
	雪堆積場	・全体：<u>82 箇所</u> 【増減なし】 <内訳> ・一般受入： <u>31 箇所</u> （民間車両受入可）【増減なし】 ・公共専用： <u>51 箇所</u> 【増減なし】	
	雪処理施設	・流雪溝：<u>8 施設</u> ・融雪槽等：<u>7 施設</u> ・地域密着型雪処理施設：<u>3 施設</u>	
	広報・啓発	・札幌ゆきだるまプロジェクト ・冬のくらしガイド ・市民の冬の暮らしに役立つ情報の発信 等	
	協働	・小型除雪機の貸出し（1 シーズン）： <u>40 件</u> （予定）【増減なし】	

3 今冬の主な取組

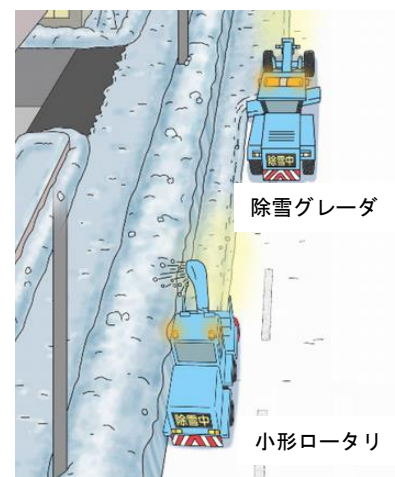
「冬のみちづくりプラン 2018」の5つの視点に基づき、主な取組を掲載。

視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保

(1) バス路線の除排雪強化

バスの円滑な運行の確保に向け、市内のバス路線の交通量・バス便数・道路幅員などを勘案し、除排雪を強化する。

- 除雪作業（新雪除雪と拡幅除雪の連続作業）
新雪除雪と同日中に、小形ロータリによる拡幅除雪を実施する。R6：87km【増減なし】
- 排雪作業
 - ・バス専用レーン R6：17 km（3回）【増減なし】
 - ・バス優先レーン R6：21 km（2回）【増減なし】
 - ・幅員の狭いバス路線 R6：35 km（2回）【2 km減】
 - ・路肩の狭いバス路線 R6：145 km（2回）【30 km増】
- バス事業者との連携



連続作業のイメージ

令和3年度の大雪を受け、バス事業者との連携についても強化を図り、道路状況や作業状況等の情報共有体制を構築した。

(2) 交差点排雪の強化

渋滞解消のための「幹線道路と幹線道路との交差点排雪」に加え、見通し改善のための「生活道路と幹線道路との交差点排雪」を実施する。

- ・幹線道路と幹線道路との交差点排雪 R6：255箇所【増減なし】
- ・生活道路と幹線道路との交差点排雪 R6：16,000箇所【増減なし】

(3) 車道や歩道の凍結路面对策強化

○ 車道（幹線やバス路線）

滑りやすい路面による交通渋滞の緩和や交通事故の抑制に向け、路面や気象状況に応じて朝ラッシュ対応を実施しており、その内、一部の路線においては、夕方ラッシュ対応の凍結防止剤等の散布強化を継続する。

- ・朝ラッシュ対応の散布 R6：736 km【増減なし】
- ・夕方ラッシュ対応の散布 R6：292 km【増減なし】

○ 歩道

冬期の安全安心な歩行空間の確保に向け、主にバリアフリー基本構想で設定された生活関連経路の歩道を対象に320km散布を実施しており、散布回数を20回/年から40回/年に強化し、継続的に実施する。

- ・歩道の散布強化延長 R6：320km【増減なし】

（４）大雪に備えた体制の強化

大雪時における除排雪の体制や具体的な行動計画などを定めた「大雪時の対応指針」に基づき、大雪時は、全庁的に情報共有を図りながら、積雪深や気象、作業の進捗状況等のフェーズに応じた対策等を実施する。

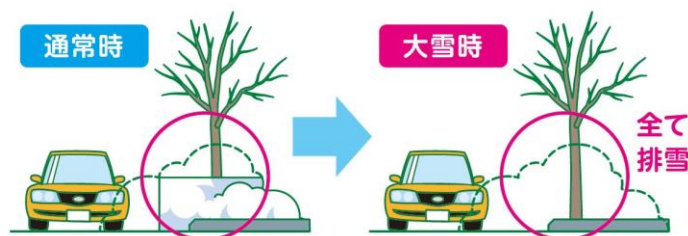
また、大雪に備えた関係機関等との連携強化など、さらなる検討や調整を進め、大雪にも強く、持続可能な除排雪体制を確保する。

○大雪時の対策のポイント

ポイント１ 排雪作業の前倒しと強化

＜フェーズ１＞「運搬排雪の前倒しと強化」

- ・12月から1月上旬に大雪が見込まれる場合、その後の大雪に備えるため、幹線道路の運搬排雪の前倒しと強化を図る。
- ・大雪時（フェーズ１）における運搬排雪を強化する。（雪出排雪）



＜フェーズ２＞「応援等による体制強化」

- ・一部の区における作業の遅れを取り戻すため、他区除雪事業者や関係団体等に応援を要請し、作業体制の強化を図る。

＜フェーズ３＞「生活道路の緊急排雪」

- ・全市的な作業の遅れを取り戻すため、生活道路を排雪ダンプの経路となる「幹」と、それ以外の「枝」に分け、緊急排雪を実施する。
- ・他道路管理者等に応援を要請し、作業体制の強化を図る。

ポイント２ 雪堆積場等の増強

- ・緊急用雪堆積場、雪置き場等の開設
- ・他道路管理者との雪堆積場相互利用の拡大
- ・融雪施設の稼働期間の延長
- ・河川敷地雪堆積場の嵩上げや公園・学校グラウンドへの雪入れの実施

ポイント３ 市民・企業との協働の取組み

＜市民との協働＞

- ・大雪時に生じるリスクやとるべき行動について、広報誌やSNS、YouTube などにより周知する。
- ・大雪時の不要不急の外出を控えることを呼び掛ける。

＜企業との協働＞

- ・大雪時の時差出勤や出勤抑制について協力を要請する。

(5) 生活道路の除排雪

近年の市民ニーズの変化や今後想定される除雪従事者の減少への対応のため、生活道路の除排雪に関する各種取組を進めている。

① パートナースhip排雪の断面選択制の導入【実証実験】H29～R3【運用】R4～ … 別紙1

従来の標準断面のほかに排雪時に雪を多く残すことで、地域支払額を低減した「抑制断面」を設け、地域の実情に応じて排雪断面を選択できるよう運用を開始している。

○ R5 申請実績

抑制断面 (361,500 円/km) 203 団体 (割合 15%)

標準断面 (516,400 円/km) 1,131 団体 (割合 85%)

※ この他、近年の物価高騰等による地域支払額上昇への当面の対応として、令和4年度より地域支払額の据え置きを実施

② 生活道路除排雪の在り方検討【検討段階】R5～

将来的に見込まれている除雪従事者の減少への対応のほか、昨今の在宅介護サービスや宅配などの普及による生活道路の冬期道路環境に対する市民ニーズの変化を受け、検討を開始している。

○ 取組項目

(1) 各区連合町内会長等との意見交換 (R5 実施)

(2) 持続可能な生活道路除排雪の在り方検討会 (R6 開催中)

様々な立場・分野の委員による多様な視点から、今後の生活道路除排雪の在り方について活発な意見交換を行い、検討に反映するご意見をいただく。

< 委員名簿 >

氏 名	所属等
高野 伸栄	北海道大学大学院 工学研究院土木工学部門 教授
宮浦 征宏	札幌市除雪事業協会 会長
原 文 宏	一般社団法人 北海道開発技術センター 理事・地域政策研究所長
野田 竜也	ソリトン・コム株式会社 代表取締役
有田 京史	豊平区東月寒地区町内会連合会 会長
高木 啓太	社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉課長
臼井 栄三	市民委員
高橋 拓輝	市民委員
山口 さおり	市民委員

< 検討会開催状況 >

第1回 令和6年6月18日（火）

- ・ 検討の背景（除雪と排雪、排雪支援制度の成り立ち）
- ・ 生活道路除排雪における「地域・行政・事業者」の課題

第2回 9月13日（金）

- ・ 冬期道路環境の現状と課題
（かき分け除雪後の出入口前の雪処理負担、凸凹・ザクザク路面の対応）
- ・ 除排雪作業の効率化の重要性、R5試験施工の結果と課題・改善点

第3回 11月下旬（予定）

- ・ シーズンを通した冬期道路環境の再整理
- ・ 除排雪手法の一例の提案など

第4回 2月以降（予定）

- ・ 委員意見内容の総括、まとめなど



第1回在り方検討会

(3) 除排雪作業手法の検証

一部地域で作業の効率化に向けた試験施工を実施 … 別紙2

R5試験施工：9区10地域（約28km）

R6試験施工：3区4地域（約24km）

- ・ 地域毎に様々な除排雪手法（除雪機械）を実施
- ・ 降雪状況等に応じて、排雪作業時期の前倒しなどを想定
- ・ R5試験施工と比較し、1地域あたりの範囲を広げて実施
⇒道路環境に応じた面的な作業計画や除雪機械の組み合わせによる効率化の検証のほか、シーズンを通した冬期道路環境の確認

	町内会名	延長
白石区	①北郷北部町内会、北郷瑞穂町内会（一部）	約7.2km
西区	②二十四軒東第6町内会、二十四軒第7町内会	約4.8km
	③西町中の川町内会	約5.2km
手稲区	④新発寒向陽町内会	約6.6km
3区	4地域	約23.8km

※ 試験施工は上記地域でのみ実施。その他の地域は例年通りの除排雪作業を実施

③ ザクザク路面の対応

暖気後に実施する整正作業に加えて、気象予報などを踏まえ予防保全的に整正作業を行い、日ごろから圧雪厚を薄くすることで、ザクザク路面による影響の軽減を図る。

視点 2 除排雪作業の効率化・省力化

(1) 除雪機械の1人乗り化

今後予想される除雪従事者の高齢化などに伴う除雪オペレータ不足への対応として、1名乗車を可能とした除雪機械を導入することで限られた人員でも安全に作業が行える体制を確保することを目的に令和2年度より本格運用している。

検証段階	1人乗り化への確認事項
ステップ1 (2名乗車)	・オペレーターが安全補助装置の有効性を確認
ステップ2 (1名乗車)	・1名乗車で作業可能か、ステップ1を経験したオペレーター及びマルチJVが確認 ・オペレーターが1名乗車作業の課題を確認
ステップ3 (1名乗車)	・ステップ2を経験したオペレーターがワンオペでの作業に対して、安全面で問題なければ継続

【市保有車】

- ① 1人乗り除雪グレーダの導入 (R6時点導入台数：89台)
安全補助装置が搭載された1名乗車型除雪グレーダを導入
- ② 2名乗車型既存機械への安全補助装置の設置 (R6時点設置済み台数：105台)
現在使用中の2名乗車型の既存除雪機械に、カメラやセンサーなどの安全補助装置を設置し1名乗車を可能とする。

			
除雪グレーダ(2人乗り)	除雪ドーザ	凍結防止剤散布車	除雪トラック
45台	25台	25台	10台

【業者保有車】

除雪機械の1人乗り化の取組は、安全面を十分考慮して進める必要があるため、市保有車から先行し上表のように段階的に進めてきた。R5年度からは業者保有車も対象とした取組を行っている。

- ① 1人乗り除雪グレーダの導入 (R5年度末時点導入台数：7台)
- ② 2名乗車型既存機械への安全補助装置の設置 (R5年度末時点設置済み台数：4台)

(2) 雪堆積場等選定システムの構築

排雪作業で使用するダンプトラックや雪堆積場等の効率的な運用を進めるため、ICTを活用して排雪現場から効率的な搬入先を選定するシステムの構築を進めている。

R5：システム改良、除雪事業者との意見交換

R6：システム改良、除雪事業者との意見交換、暫定運用

選定システムのイメージ

項目	これまで	今後
搬入先の選定	人(担当者)	選定システム
範囲	区内で効率化 (状況によっては隣接区と調整)	全市的な視点で効率化

(3) 雪堆積場の確保

雪堆積場の過年度最大搬入量である令和3年度の搬入量実績に、フェーズ1の排雪強化分の130万 m^3 を加えた2,673万 m^3 を全体必要量とする。

令和6年度は82箇所、最大搬入可能量2,678万 m^3 を確保する。

○ 内訳

- ・一般受入（民間車両受入可） R6：31箇所【増減なし】
- ・公共専用 R6：51箇所【増減なし】

○ 開設時期（一般受入）

- ・12月1日開設 5箇所（このうち2箇所は週休日のため12月2日開設）
- ・12月10日開設 2箇所
- ・12月20日開設 13箇所
- ・1月10日開設 11箇所

○ 過去の搬入量実績

- ・R5 : 1,980.8万 m^3 （公共1,066.3万 m^3 民間 914.5万 m^3 ）
- ・10年平均（H26～R5） : 1,750.3万 m^3 （公共 973.6万 m^3 民間 776.7万 m^3 ）
- ・R3（過去最大） : 2,543.4万 m^3 （公共1,396.7万 m^3 民間1,146.7万 m^3 ）

(4) 雪堆積場の運用見直し

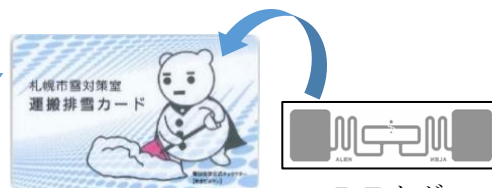
雪堆積場等へ搬入する公共排雪車両の計数作業に係る人員の省力化や集計作業の効率化を目的に、RFタグを活用した搬入車両を自動で集計するシステムの導入を進める。（雪堆積場等車両集計システム）

		R4	R5	R6
雪堆積場	室内型	—	27	30
	屋外型	14	1	—
融雪施設	室内型	—	1	2
	屋外型	7	—	—
合計		21	29(50)	32(82)

年度別の導入雪対策施設数 〇は累計



公共排雪車両の計数状況



運搬排雪カード
(RFタグ貼付)



室内型認証装置

※なお、認証装置には室内型と屋外型がある。

（５）新たな融雪施設の整備

ダンプトラックの運搬距離の縮減や必要台数の低減など、持続可能な雪対策に資する施設として、東部水再生プラザの処理水を利用した融雪槽の整備を進める。

また、下水道管を流れる未処理下水を利用した地域密着型雪処理施設の整備の検討を行う。

年度	東部融雪槽
R4	基本検討・基本設計
R5	実施設計
R6	整備工事
R7	整備工事
R8	運用開始



東部水再生プラザ

（６）冬期の公共用地を活用した雪置き場

雪堆積場の郊外化が進んでいることを受け、地域内の雪はなるべく地域内で処理することを目的に、関係機関や他部局と連携し、公園や雨水貯留池などの約 1,700 箇所を雪置き場として活用する。

【R5 確保実績】

- ・公園 : 1,591 箇所（町会内との覚書締結箇所）
- ・学校グラウンド : 13 箇所
- ・雨水貯留池 : 34 箇所
- ・管財部等の他部局所管用地 : 28 箇所
- ・他機関所管用地 : 15 箇所



公園の活用



雨水貯留池の活用

視点3 除排雪体制の維持・安定化

（１）除雪機械オペレーターの運転免許取得助成

道路維持除雪業務又は民活型雪堆積場管理業務に携わる者が、大型特殊自動車運転免許を取得する際に、その取得費用の２分の１に相当する金額（上限４万円）を助成する。

平成２７年度より事業を開始し、平成２９年度には一次下請け業者に勤務する従業員も補助を受けられるよう助成対象を拡大した。

これまでに計２０７件（令和６年１０月末時点）の助成を実施している。

<補助件数実績>

H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6※
9	12	28	21	13	16	27	41	19	21

※令和６年１０月末時点における申請数

（２）除雪機械オペレーターの育成

除雪技術の継承のほか若手オペレーター及び新規オペレーターの育成を目的に、機械の操作技術や基礎知識など習得するため、以下の講習会を行う。

○１人乗り除雪グレーダを活用した冬期除雪業務へ向けた実技講習会

- ・開催日：令和６年６月８日（土）、９月７日（土）
- ・会場：札幌運転免許試験場
- ・参加者数：３０名

○札幌市除雪事業協会と連携した除雪機械実技研修会

- ・開催日：令和７年１月下旬（予定）
- ・会場：厚別区土木センター、南区土木センター、手稲区土木センター（予定）
- ・参加者数：４０名程度（見込み）



札幌運転免許試験場での実技講習会

(3) 除雪作業日報作成支援システムの構築

除雪従事者の労働環境を改善するため、主要な除雪車にGPS機器を設置し、取得した位置情報などを活用して、除雪作業日報の作成支援などを行う。

＜GPS機器設置除雪車＞

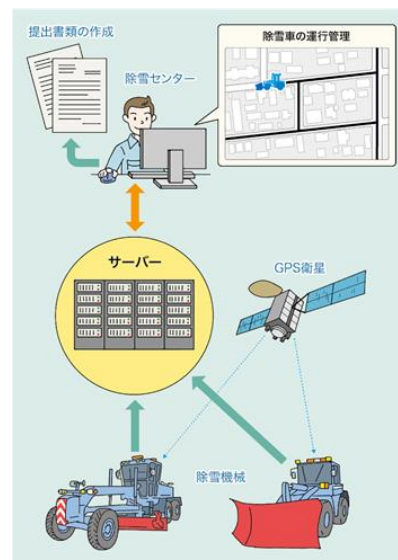
- ・約800台

＜運用済＞

- ・除雪機械走行軌跡表示
- ・車両運転日報作成の自動化

＜今後運用予定＞

- ・除雪作業日報作成の自動化



(4) 労働環境改善に向けた取組

○ 一般受入雪堆積場における取組

- ・年末年始の閉鎖期間拡大

令和2年度から一部の雪堆積場を除き、年末年始の閉鎖期間を拡大（12月31日正午から1月3日午後5時）している。

- ・週休日の導入

民間受入を行っている一般受入雪堆積場従事者の労働環境改善に向け、令和4年度から週休日を導入している。ただし大雪の場合は状況に応じて臨時開設を検討する。

週休日	箇所数	閉鎖時間
日曜日	26 箇所	毎週日曜日午前9時～月曜日午前9時
土曜日	4 箇所	毎週土曜日午前9時～日曜日午前9時
月曜日	1 箇所	毎週月曜日午前9時～火曜日午前9時

○ カスタマーハラスメント対策

「札幌市道路維持除雪業務におけるカスタマーハラスメント対策マニュアル」を作成し、各区土木センター及び除雪センターに配布するとともに、カスタマーハラスメント対策を盛り込んだ「苦情要望に係る対応研修」を実施予定。

(5) 市貸与除雪機械の確保

除排雪体制の維持・安定化に向け、除雪機械の購入を進める。

＜R6 購入台数＞

車 両	増強	更新
除雪グレーダ	1 台	8 台
大形ロータリ除雪車	2 台	
小形ロータリ除雪車		4 台
合 計	15 台	

＜市貸与除雪機械台数の推移＞

R2	R3	R4	R5	R6
416 台	421 台	423 台	430 台	432 台

視点 4 雪対策における市民力の結集

(1) 地域除雪ボランティアへの支援

- 除雪用具の貸出
地域、企業、学生による地域除雪ボランティア活動に対して、除雪用具の貸出しを行う。【R5実績：51団体】
- 小型除雪機の貸出
冬期間の交通確保や生活環境の向上を目指すため、自主的に道路除雪を行う町内会等に小型除雪機の貸出しを行う。【R5実績：40件】
- 小型除雪機の購入補助
自主的に道路除雪を行う町内会等が購入する小型除雪機の購入費用を半額補助する。【R5実績：14団体】
- 除雪ボランティアのコーディネート
除雪ボランティアを実施したいと考える企業や団体と、除雪ボランティアを求める地域をつなげる取組を進める。【R5実績：5団体】

(2) 砂まき活動の推進

- 企業名入り砂箱の設置推進
寄贈いただいた企業名の入った、歩行者用砂箱を設置する。【R5 実績：174 基】
- 企業や店舗による砂まき活動の推進
コンビニエンスストアや銀行、信金、商店街などの企業・団体にご協力をいただき、店舗前の歩道や交差点への砂まき活動を推進する。【R5 実績(協力店舗数):1,525 店舗】

(3) ウィンターライフ推進協議会との連携

札幌市も参画しているウィンターライフ推進協議会にご協力いただき、雪みちでの転倒事故防止に向けた砂まき活動や転ばないコツなどの情報発信や普及啓発を行う。

<ウィンターライフ推進協議会>

■ 目的

札幌市を拠点とし、積雪寒冷地における冬を安全・安心・快適に過ごすとともに、冬を楽しむための環境づくりを通じて、地域社会へ貢献することを目的としている。

■ 活動内容

- ・雪みちでの転倒防止活動等に関する普及啓発および調査研究
- ・冬を快適に過ごすための普及啓発および調査研究など

■ 構成・会員

- ・協議会の目的に賛同する民間企業、法人、団体、個人
- ・北海道大学や北海道医療大学などの有識者
- ・北海道開発局、北海道、札幌市、寒地土木研究所などの行政機関
- ・事務局：一般社団法人北海道開発技術センター

視点5 雪対策に関する広報の充実

(1) 札幌ゆきだるマンプロジェクト

「ゆきだるマン」をメインキャラクターとして、多様な広報ツールを活用し、市民に分かりやすく伝わりやすい広報・啓発活動を行う。

〈R6 取組〉

- ・環境広場さっぽろ 2024 やミニさっぽろに除雪の仕事に関するブースを出展し、子どもたちに雪対策を理解してもらう。
- ・雪対策に関する広報動画、パンフレットを YouTube やホームページ等に掲載し広く市民向けに広報を行い、イベントや出前講座を行うことで市民理解を深める。
- ・デジタルサイネージなど、各種メディアを活用した効果的な広報・啓発を企画・実施する。



(2) 冬の暮らしガイド（広報さっぽろ 12 月号に綴じ込み）

市の取組や冬のルール、各除雪センターの連絡先などを掲載した「冬の暮らしガイド」を、全戸に配布する。

(3) 市民の冬の暮らしに役立つ情報の発信

○ 除雪等の出動情報

- ① 生活道路における新雪除雪の出動状況として、市内 40 地区に分けた情報を配信する。

【配信方法】

- ・ホームページ
- ・データ放送（放送局：HTB、NHK、HBC、UHB ※放送開始順）
- ・LINE（札幌市 LINE 公式アカウント）

- ② 大雪時などに緊急除排雪作業を行う際には、上記配信に加え X（札幌市公式アカウント 旧 Twitter）を用いて情報発信

○ ホームページによる各種情報の発信

- ・降雪予報をもとに、市内 21 地区に分けて雪かきの必要度を示す「雪かき指数」
- ・雪対策に関する市民の疑問を解決する Q&A
- ・冬みちを安全・快適に歩くための総合情報サイト「転ばないコツおしえます。」※
- ・「つるつる予報」（11 月下旬～翌年 3 月下旬の約 4 か月間）※

※ウインターライフ推進協議会 制作・運営

冬みちでの歩行者の転倒事故を防止することを目的として、地域や観光客の皆様に、転倒防止につながる情報を提供

(4) 冬みち地域連携事業

- 雪体験授業の実施

小学校高学年を対象とした除雪に関する体験学習を実施し、除雪への理解を深めてもらう取組を行う。

【R5 実績：185 校】

- 雪体験教室の実施

これまで実施してきた小学校に加え、幼稚園を対象とした除雪に関する体験教室を実施し、雪に親しむ活動や雪国ならではの文化を学ぶ取組を行う。

【R5 実績：5 園】

- 地域との合同パトロール等の実施

除排雪への理解度向上や地域の課題解決、生活道路環境の向上を図るため、地域懇談会や意見交換会、合同パトロールを実施するほか、ニュースレター等による情報提供を行う。

・地域懇談会、意見交換会、合同パトロール【R5 実績：16 町内会】

- 雪と暮らすおはなし発表会

子どもたちによる「雪」や「冬」に関する作品の募集・展示を行う。

【R5 実績（応募数）：73 作品】



・環状北大橋下流右岸 ・大曲地区 ・盤溪地区 ・上篠路地区
・有明第2地区 ・澄川南地区 ・前田地区 ・石狩新港西地区 ・新琴似8横

ホームページ画面（開設状況）

YouTube 配信画面（混雑状況）

パンフレット（雪堆積場ガイド）

① パートナーシップ排雪の断面選択制の導入：実証実験H29～ 運用R4～

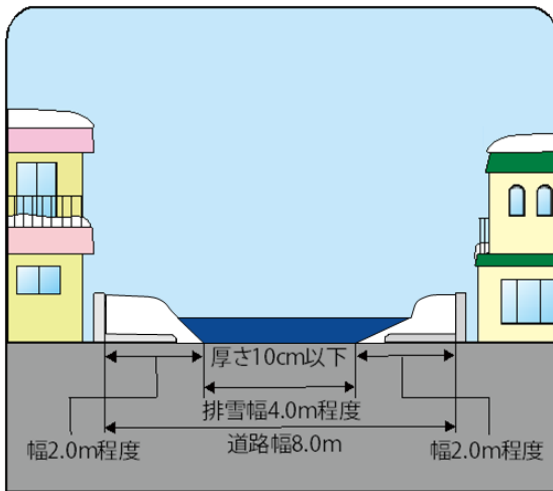
1 取組の背景

- 労務単価や機械損料等の高騰により地域支払額が上昇していることで、制度を継続して利用することが困難となってきた町内会の声が高まっている

パートナーシップ排雪の標準断面と比較し、排雪量と地域支払額を7割程度に抑えた排雪断面を設定し、地域の実情に合わせた断面選択制の導入に向けた取組を実施

2 抑制断面（排雪断面の選択制）の概要（実証実験H29～ 運用R4～）

『Ⅰ型断面』



<特徴>

- ・路面の雪のみを取り除き、道路脇の雪山は原則排雪しない

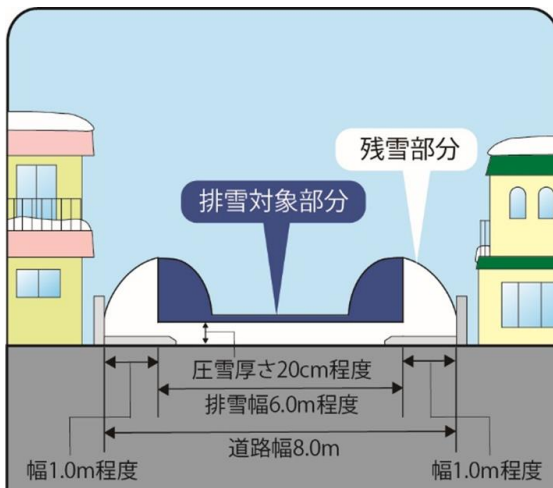
個人排雪等の利用率が高く、道路上の雪が比較的少ない団体に有効

『Ⅱ型断面』

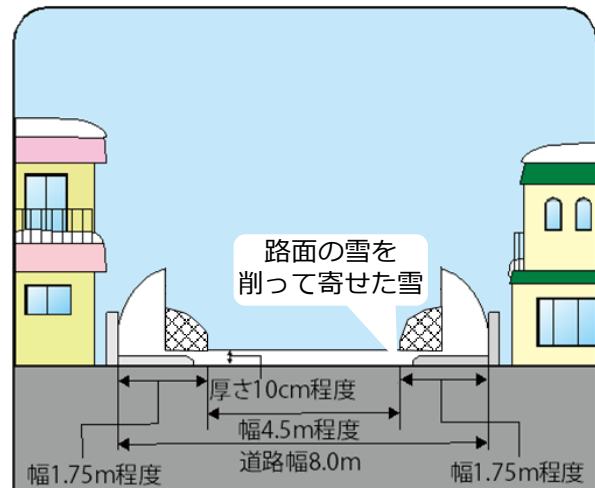
- <特徴>
- Ⅱ型-①：路面の雪は厚く残るが、通行幅はこれまでどおり確保
 - Ⅱ型-②：通行幅は狭いが、路面の雪はこれまでどおりの厚さ

現場状況に応じて、①又は②のどちらかの仕上り断面を目標に作業を実施

Ⅱ型-①（雪を路面に残す）



Ⅱ型-②（雪を道路わきに残す）



路面の圧雪を保てる場合

寒い

雪の残し方の違い

暖い

路面にザクザクが生じた場合

令和4年度より上記「抑制断面」の選択制を運用

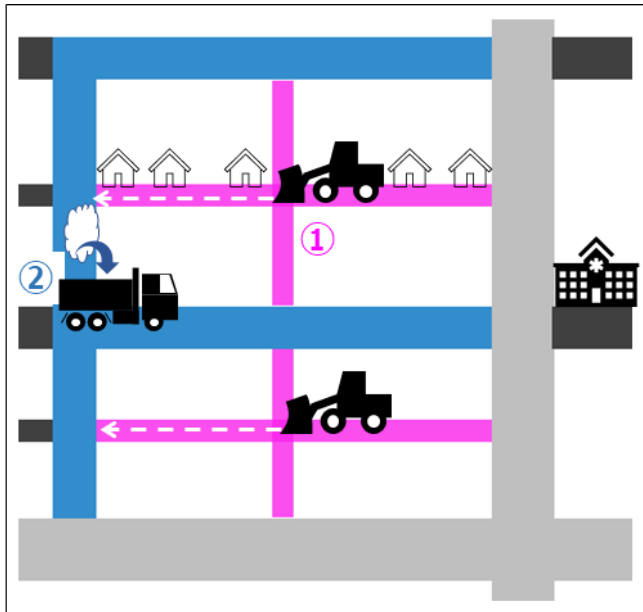
② 生活道路除排雪の試験施工：R5～

1 令和5年度の試験施工と作業結果（9区10地域 約28km）

- 主に生活道路の①圧雪部分を削り出す作業を実施
- ダンプトラックへの②積込作業は広めの道路などで実施

除排雪作業の効率化に
向けた手法の検証

①削り出し路線と②積込路線の概念図



①削り出し作業のイメージ



②積込作業のイメージ



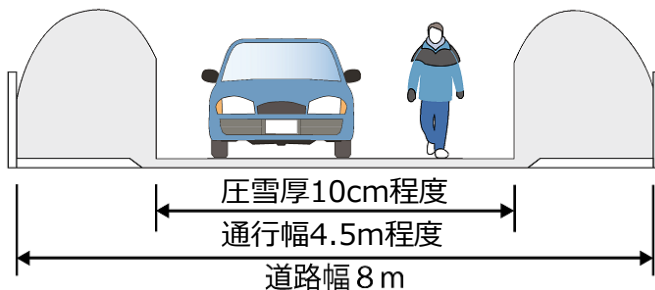
凡例

- ①削り出し路線
- ②積込路線
- 幹線・バス路線等
- 試験施工の対象外

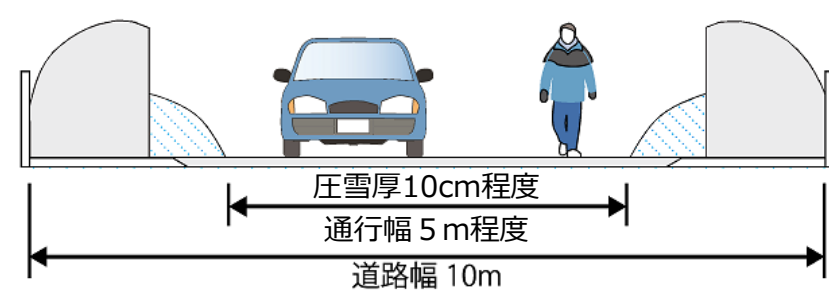


【作業後イメージ】

① 削り出し路線



② 積込路線

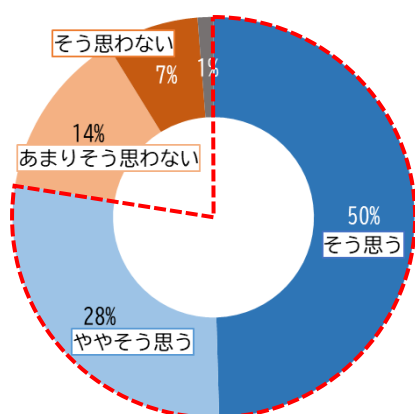


【作業結果】

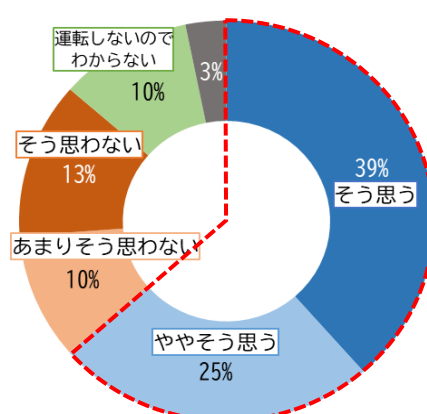
- 一部地域でパートナーシップ排雪と比較し作業日数を短縮
- 暖気前の作業により、ザクザク路面の抑制や苦情要望が減少

【試験施工直後の道路状況に関する地域アンケート結果】（R5調査 N=787）

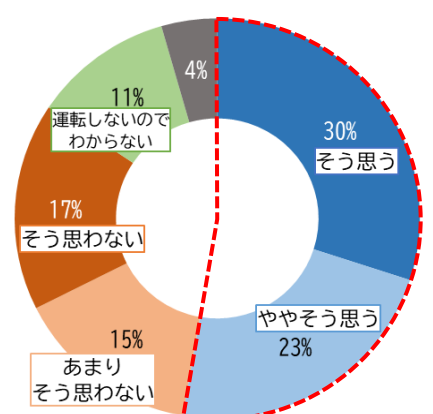
「路面の雪の厚さ」について、
歩行に問題ないと思いましたが



「路面の雪の厚さ」について、
車の走行に問題ないと思いましたが



「通行幅」について、
車の走行に問題ないと思いましたが



② 生活道路除排雪の試験施工：R5～

【作業の課題（改善点）】

- 道路幅員や路面状況などによって、**削り出し**に時間がかかる
- 狭い道路が多い地域などでは、**雪置き場の確保**が難しい

更なる作業の効率化に
向けた手法の検証が必要

2 令和6年度の試験施工（3区4地域 約24km）

	町内会名	延長
白石区	① 北郷北部町内会、北郷瑞穂町内会(一部)	約7.2km
西区	② 二十四軒東第6町内会、二十四軒第7町内会	約4.8km
	③ 西町中の川町内会	約5.2km
手稲区	④ 新発寒向陽町内会	約6.6km
3区	4地域	約23.8km



検証のポイント

- ・ 試験施工地域毎に様々な除排雪手法(除雪機械)により実施
- ・ 降雪状況等に応じて、排雪作業時期の前倒しなども想定
- ・ 1地域あたりの範囲を広げて実施(平均約6km)

- ・ 道路環境に応じた面的な作業計画や除雪機械の組み合わせによる効率化の検証
- ・ シーズンを通した冬期道路環境の確認

削り出し作業では「タイヤショベル」、**積込作業**では地域毎に「バックホウ」や「ロータリ」(小型・大型)を使用



※ 試験施工は①～④の地域のみで実施します。その他の地域は例年通りの除排雪作業となります

※ 試験施工による作業内容は、今後の除排雪手法として確定したものではありません